



平成31年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



平成30年10月30日

上場会社名 株式会社 デサント 上場取引所 東
 コード番号 8114 URL <http://www.descente.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石本 雅敏
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 辻本 謙一 (TEL) 06-6774-0365
 四半期報告書提出予定日 平成30年11月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第2四半期の連結業績(平成30年4月1日～平成30年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第2四半期	66,768	1.2	2,873	△15.5	3,219	△8.1	2,291	△6.1
30年3月期第2四半期	65,959	5.5	3,399	△1.1	3,504	△6.4	2,440	△8.9

(注) 包括利益 31年3月期第2四半期 △528百万円(—%) 30年3月期第2四半期 3,195百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第2四半期	30.40	—
30年3月期第2四半期	32.39	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第2四半期	110,103	76,686	69.6
30年3月期	117,141	78,875	67.3

(参考) 自己資本 31年3月期第2四半期 76,686百万円 30年3月期 78,875百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	23.00	23.00
31年3月期	—	0.00	—	—	—
31年3月期(予想)	—	—	—	26.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	148,000	4.9	9,600	0.0	10,000	3.1	6,500	12.6	86.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、 除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
 (注) 詳細は、添付資料の10ページ、「(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期2Q	76,924,176株	30年3月期	76,924,176株
② 期末自己株式数	31年3月期2Q	1,515,767株	30年3月期	1,551,380株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期2Q	75,388,058株	30年3月期2Q	75,352,679株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】4ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	10
(セグメント情報等)	11
(追加情報)	11
3. 補足情報	12
海外売上高	12

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間の売上高は66,768百万円（前年同四半期比1.2%増）、営業利益は2,873百万円（前年同四半期比15.5%減）、経常利益は3,219百万円（前年同四半期比8.1%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は2,291百万円（前年同四半期比6.1%減）となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。

（セグメント別売上高）

セグメントの名称	売上高(百万円) (前年同四半期比)	セグメント利益又は損失(百万円) (前年同四半期比)
日 本	28,947 (100.4%)	1,020 (76.4%)
ア ジ ア	36,860 (102.3%)	2,362 (93.0%)
欧 米	960 (89.0%)	△526 (前年同四半期△479百万円)
調 整 額	—	17 (前年同四半期3百万円)
合 計	66,768 (101.2%)	2,873 (84.5%)

（日本）

アスレチックカテゴリーにおいては「デサント」、「ルコックスポルティフ」は好調に推移しましたが、「アンブロ」は苦戦しました。ゴルフカテゴリーにおいては「ルコックスポルティフ」が堅調に推移しました。日本全体として売上高は堅調に推移しましたが、販管費の増加により利益は前年同四半期より縮小しました。

（アジア）

韓国においては「デサント」が好調に推移、香港、シンガポールにおいては「アリーナ」が堅調に推移しました。アジア全体として売上高は堅調に推移しましたが、粗利率の低下および販管費の増加により利益は前年同四半期より縮小しました。

（欧米）

売上高は前年同四半期を下回りました。デサントアスレチックアメリカスを設立したことによる販管費の増加により損失は前年同四半期に比べ拡大しました。

品目別売上高の状況は次のとおりであります。

（品目別売上高）

区 分	金 額	構 成 比	前年同四半期比
	百万円	%	%
アスレチックウェア及びその関連商品	46,298	69.3	103.2
ゴルフウェア及びその関連商品	17,361	26.0	97.8
アウトドアウェア及びその関連商品	3,108	4.7	93.5
合 計	66,768	100.0	101.2

（注）上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(アスレチックウェア及びその関連商品)

アスレチックカテゴリにおいては、売場作りの強化と新規業態店の展開を通じて新規顧客の獲得とブランドイメージの向上を図っています。「デサント」においては、大名古屋ビルヂングに東海地区初出店となる「DESCENTE BLANC 名古屋」を9月にオープンしました。「DESCENTE BLANC」の出店を通して、「デサント」ブランドが培ってきたクラフトマンシップやモノづくりスピリットを発信し、ブランド価値向上を図っています。韓国においては、ランニングの機能的要素とライフスタイル要素を組み合わせたスポーツカジュアルウェアを展開する新業態「DUAL」の店舗を4月にオープンしました。また「ルコックスポルティフ」においては、ブランドが培ってきたスポーツブランドならではの機能性と、高いファッション性を生かし、都市生活者に向けたアーバンライフスタイルを発信している「le coq sportif avant」の4店舗目を9月に日本橋高島屋S.C.新館にオープンしました。

「アリーナ」においては、8月に行われた「パンパシフィック水泳選手権大会2018」にゴールドパートナーとして協賛し、同大会を盛り上げるキャンペーンの実施、関連商品の販売など様々なマーケティング活動により、ブランド訴求を図りました。また、同大会において契約選手の瀬戸大也選手(所属:ANA/JSS毛呂山)が200mバタフライで金メダルを獲得し、ブランド価値向上につながりました。香港においては、新規ファンの獲得やブランドイメージの向上を目的に、フランスのファッションブランド「agnes b」のスポーツカジュアルライン「Sport b」とのコラボレーション企画商品を発売しました。「アンブロ」においては、サッカー日本代表選手としても活躍した契約選手の柴崎岳選手と共同開発した「U by GAKU」コレクションや、韓国においてアグリーシューズ「BUMPY」の売上が好調に推移し、シューズ事業の拡大を進めています。

(ゴルフウェア及びその関連商品)

ゴルフカテゴリにおいては、「マンシングウェア」の旗艦店を、4月に東京・銀座にオープンしました。ゴルフウェアはもちろん、日常シーンで着用していただけるウェアも新たに展開し、ゴルフを愛する人々の上質なクラブハウススタイルを提案しています。ベトナムにおいては、4月にオープンしたハノイ・ロッテ百貨店の1号店に引き続き、2号店を7月にハノイにオープンし、東南アジアでの事業拡大を図っています。また今年も9月に「第49回マンシングウェアレディース東海クラシック」を開催し、契約選手の新垣比奈プロが2位タイ、同じく9月に開催された「ミヤギテレビ杯ダンロップ女子オープンゴルフトーナメント」において契約選手の大江香織プロが2年ぶりとなるツアー通算3勝目をあげるなど好成績を残しました。「ルコックスポルティフ」においては、韓国において若者向けの「SUNDAY」シリーズが好調に推移しています。「デサント」においては、7月に上海・久光百貨店に中国において初めてとなるゴルフ店舗をオープンしました。

その他のトピックスとして、7月に大阪府・茨木市にてアパレルのR&Dセンター(DISC)の稼働が開始しました。韓国・釜山広域市のシューズのR&Dセンターも10月より稼働しています。両R&Dセンターは、共通コンセプトを設定し、スポーツアイテムとして、様々な競技シーンにおいて使用者のパフォーマンスを引き出す高次元な機能性の開発およびそれを安定的に実現するための品質基準の制定を並行して行い、DISCを起点に重点戦略の一つとして掲げている「モノを創る力」の向上に引き続き努めていきます。また、8月30日に株式会社ワコールホールディングスと包括的業務提携契約を締結しました。「美と健康と快適」を追求し、多くの女性から支持されるインナーウェアを提供し続けているワコールと、多くのアスリートとの共同開発により培ったスポーツ分野における高いノウハウを有するデサント、それぞれの経営資源を相互に活用し、事業基盤の強化・拡充・発展に努めることによって、ファッションとスポーツの事業領域を超えた新しい価値を創造し、両社の事業の拡大とグローバル化の推進を図っていきます。

(2) 財政状態に関する説明

(資産、負債、純資産の状況に関する分析)

当第2四半期連結会計期間末の資産合計は110,103百万円となり、前連結会計年度末に比べ7,037百万円減少致しました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ8,264百万円減少し、69,803百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少4,839百万円、受取手形及び売掛金の減少1,683百万円、商品及び製品の減少1,266百万円などによるものです。

固定資産は前連結会計年度末に比べ1,226百万円増加し、40,300百万円となりました。

負債合計は前連結会計年度末に比べ4,848百万円減少し、33,417百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金の減少2,635百万円などによるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ2,189百万円減少し、76,686百万円となりました。これは主に利益剰余金の増加558百万円、為替換算調整勘定の減少2,832百万円などによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ2.3%増の69.6%となりました。

(キャッシュ・フローの状況に関する分析)

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物の期末残高は、前連結会計年度末に比べ5,449百万円減少し、21,920百万円となりました。

営業活動によるキャッシュ・フローは、2,324百万円の収入超過（前第2四半期連結累計期間は3,451百万円の収入超過）となりました。これは主な減少要因として、仕入債務の減少額2,307百万円、法人税等の支払額1,370百万円などがありましたが、税金等調整前四半期純利益3,219百万円、減価償却費1,709百万円、売上債権の減少額1,173百万円などの増加要因があったことによるものです。

投資活動によるキャッシュ・フローは、4,766百万円の支出超過（前第2四半期連結累計期間は3,551百万円の支出超過）となりました。これは有形固定資産の取得による支出3,174百万円などによるものです。

財務活動によるキャッシュ・フローは、2,109百万円の支出超過（前第2四半期連結累計期間は1,286百万円の支出超過）となりました。これは主に配当金の支払額1,733百万円などによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、グループ組織再編を行い、株式会社デサントをグローバル本社とし、日本事業をデサントジャパン株式会社に分割した新体制での運営を2017年4月に開始しました。グローバル本社では、グローバルレベルでのブランド価値向上、各エリアの事業会社と連携した現地適応型のグローバル化を推進し、2020年度に目指す姿「VISION 2020」で掲げる「付加価値の高いブランドの複数展開により、アジアで事業を拡大し、グローバルスポーツカンパニーへと成長する」をビジョンとし、グループ全体での事業拡大を積極的に進めていきます。通期連結業績予想につきましては、2018年5月14日の決算短信で公表しました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,954	23,115
受取手形及び売掛金	21,852	20,168
商品及び製品	24,933	23,666
仕掛品	140	147
原材料及び貯蔵品	885	879
その他	2,391	1,889
貸倒引当金	△90	△64
流動資産合計	78,068	69,803
固定資産		
有形固定資産	22,156	23,607
無形固定資産		
のれん	905	802
その他	4,172	4,023
無形固定資産合計	5,078	4,826
投資その他の資産		
その他	11,941	11,958
貸倒引当金	△102	△91
投資その他の資産合計	11,838	11,866
固定資産合計	39,073	40,300
資産合計	117,141	110,103
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,705	15,070
短期借入金	521	257
1年内返済予定の長期借入金	359	367
未払法人税等	1,269	792
賞与引当金	901	808
返品調整引当金	849	943
その他	7,508	6,089
流動負債合計	29,116	24,328
固定負債		
長期借入金	4,659	4,339
債務保証損失引当金	413	413
退職給付に係る負債	995	1,134
その他	3,082	3,202
固定負債合計	9,149	9,089
負債合計	38,266	33,417

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,846	3,846
資本剰余金	25,223	25,281
利益剰余金	45,421	45,979
自己株式	△658	△643
株主資本合計	73,832	74,463
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	822	812
繰延ヘッジ損益	13	△22
為替換算調整勘定	4,301	1,469
退職給付に係る調整累計額	△95	△36
その他の包括利益累計額合計	5,042	2,222
純資産合計	78,875	76,686
負債純資産合計	117,141	110,103

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年9月30日)
売上高	65,959	66,768
売上原価	29,586	29,342
売上総利益	36,373	37,426
返品調整引当金繰入額	142	93
差引売上総利益	36,230	37,332
販売費及び一般管理費	32,831	34,459
営業利益	3,399	2,873
営業外収益		
受取利息	129	152
受取配当金	47	72
持分法による投資利益	—	85
為替差益	—	111
その他	67	97
営業外収益合計	243	518
営業外費用		
支払利息	59	64
固定資産除却損	18	82
持分法による投資損失	12	—
為替差損	35	—
その他	12	24
営業外費用合計	138	171
経常利益	3,504	3,219
税金等調整前四半期純利益	3,504	3,219
法人税、住民税及び事業税	883	998
法人税等調整額	180	△70
法人税等合計	1,063	928
四半期純利益	2,440	2,291
親会社株主に帰属する四半期純利益	2,440	2,291

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	2,440	2,291
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	63	△10
繰延ヘッジ損益	14	△35
為替換算調整勘定	539	△2,732
退職給付に係る調整額	67	58
持分法適用会社に対する持分相当額	70	△99
その他の包括利益合計	755	△2,820
四半期包括利益	3,195	△528
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,195	△528

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	3,504	3,219
減価償却費	1,448	1,709
のれん償却額	134	59
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	1	△26
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△88	△93
返品調整引当金の増減額 (△は減少)	142	93
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	97	170
受取利息及び受取配当金	△176	△224
支払利息	59	64
売上債権の増減額 (△は増加)	1,204	1,173
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△610	332
仕入債務の増減額 (△は減少)	△1,574	△2,307
その他	151	△635
小計	4,294	3,535
利息及び配当金の受取額	176	224
利息の支払額	△59	△64
法人税等の支払額	△959	△1,370
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,451	2,324
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	791	352
定期預金の預入による支出	△712	△996
有形固定資産の取得による支出	△2,991	△3,174
無形固定資産の取得による支出	△217	△416
投資有価証券の取得による支出	△5	△99
関係会社株式の取得による支出	—	△178
その他	△415	△254
投資活動によるキャッシュ・フロー	△3,551	△4,766
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	602	△293
長期借入れによる収入	—	10
長期借入金の返済による支出	△127	△127
配当金の支払額	△1,732	△1,733
自己株式の取得による支出	△0	△0
その他	△29	34
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,286	△2,109
現金及び現金同等物に係る換算差額	82	△898
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,304	△5,449
現金及び現金同等物の期首残高	21,907	27,369
連結子会社の決算期変更による現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△172	—
現金及び現金同等物の四半期末残高	20,430	21,920

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

一部の連結子会社について、税金費用は、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、当該連結子会社の法人税等は、法人税、住民税及び事業税に含めて表示しております。

(セグメント情報)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	28,839	36,040	1,079	65,959	—	65,959
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,456	179	70	2,707	△2,707	—
計	31,296	36,220	1,150	68,667	△2,707	65,959
セグメント利益又は損失	1,336	2,539	△479	3,396	3	3,399

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額3百万円には、セグメント間取引消去13百万円、棚卸資産の調整額△10百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	28,947	36,860	960	66,768	—	66,768
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2,934	227	59	3,221	△3,221	—
計	31,881	37,088	1,020	69,990	△3,221	66,768
セグメント利益又は損失	1,020	2,362	△526	2,855	17	2,873

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額17百万円には、セグメント間取引消去17百万円、棚卸資産の調整額△0百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

3. 補足情報

海外売上高

前第2四半期連結累計期間（自 2017年4月1日 至 2017年9月30日）

（単位：百万円、％）

	アジア	北米	欧州その他の地域	計
I 海外売上高	37,185	422	1,345	38,953
II 連結売上高				65,959
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	56.4	0.6	2.0	59.1

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第2四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年9月30日）

（単位：百万円、％）

	アジア	北米	欧州その他の地域	計
I 海外売上高	37,707	303	1,357	39,368
II 連結売上高				66,768
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	56.5	0.5	2.0	59.0

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。